

# 御 礼

10月31より11月1日まで当寺報恩講を勤めさせていただいたところ、コロナ禍で感染の危険性がある中、またお忙しい中ご都合をつけてお参りをいただき、そして厚いご懇念をお運びいただき誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

お運びいただきました御懇志金は大切に常入寺の維持管理、そして運営のために使わせていただきます。今後とも常入寺維持運営にご協力いただきたくお願い申し上げます。

常入寺住職 青井和成



# おしちやはん 御 正 忌 法 要

11月22日(日) 午前10時より午後3時30分まで

おしっちはんとは東本願寺でつとまる御正忌報恩講(8日間勤められる宗祖親鸞聖人のご法事)にあわせて勤める仏事です。

午前の部	午前10時より
尼講追悼会	午後2時より
午後の部	引き続き



毎年の本山報恩講御満座では体を前後左右に動かすダイナミックな坂東曲が勤まります

☆法話は住職が行います。  
 ☆尼講によって、お昼にお斎のもてなしがあります。(予定)

今日のことば

わかひも  
 わからんども  
 念仏しなれい

## お願い

例年のごとく当寺維持金のご協力をお願いします。住職が12月のお参りのときお願い状を持ってまいりますので、なにとぞご協力のほどお願い申し上げます。

なお、収支報告は常入寺総会にて承認された上で、来年二月発行の「ごぼはんだより」にて公表させていただきます。ご了承ください。

## はつまいり 修正会

一月一日 午前六時より

初老や還暦の方々が団体参拝されますので修正会の始まる時間の変更となる場合もございます。年始は午前四時半より受付を開始します。コロナ禍です、例年のようなご接待はできないと思っておりますが、どうぞお参りください。

# 二〇二一年 年 期 ( 忌 ) 表

一周 期	二〇二〇年 命終	令和二年
三 回 期	二〇一九年 命終	平成三十一年・令和元年
七 回 期	二〇一五年 命終	平成二十七年
十三 回 期	二〇〇九年 命終	平成二十一年
十七 回 期	二〇〇五年 命終	平成十七年
(廿三 回 期)	一九九九年 命終	平成十一年
にじゅうごかいき	一九九七年 命終	平成九年
廿五 回 期	一九九五年 命終	平成七年
(廿七 回 期)	一九八九年 命終	昭和六十二年
さんじゅうさんかいき	一九八七年 命終	昭和四十七年
卅三 回 期	一九七二年 命終	昭和四十七年
五十 回 期	一九二二年 命終	大正十一年
百 回 期		

《法要について》 法要とは法の要(かなめ)を聞くという行事です。年期ねんきというものに基づいて行われることが多いです。しかし年期は仏教から起こった考え方ではありません。ですから年期になったから絶対に勤めなければいけないことはありません。ただ年期は法要を勤める二の手がかりです。また法要を全く勤める必要がないという意味でもありません。法要を勤めながら法要を催す意義を尋ねていきませんか

## ほんこはん すけっち photo



発行 真宗大谷派 常 入 寺

電話 九三〇一〇一六一富山市東老田七八七  
 住職携帯 (〇七六) 四三六一〇八一六  
 発行責任 青井 和 成  
 〇九〇一三七六四一三九八三



LINEはこちらから↓

✓お参りの変更  
 ✓法事の相談  
 ✓その他

こちらからでもできます



【あとがき】♥コロナ禍の中、皆様のご理解とご協力により無事常入寺の報恩講が勤まりました。住職のわがままによりいつもの報恩講になるべくなるように勤めさせていただきました。多少無理があつたとは思いますが、これはひとえに多くの方々にご念仏のみ教えにあつていただきたたい、私が親鸞聖人のみ教えをもつと聞きたかつたからであります。♠本堂で参詣された方々の表情をこっそり見ていますと楽しそうでしたし、楽しそうな会話も本堂から聞かえてまいりました。こういう場が求められているということでしょうし、こういう場の大切さがコロナ禍の中で再確認されているのだと思います。仏教を聞く場として、そして出合いの場としてお寺をまた一年維持していかなくてはと思わせていただいた報恩講でありました。THANK YOU!